

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) A case of late-onset cerebrotendinous xanthomatosis with a novel mutation in the <i>CYP27A1</i> gene. .	共著	2018 年	Intern. Med. doi:	脳腱黄色腫症 (CTX) は非常に稀な常染色体劣勢遺伝病であるが、年齢を重ねて発症するケースに遭遇し、変異部位の特定に至った。 Akari Sasamura, Satoru Akazawa, Ai Haraguchi, Ichiro Horie, Takao Ando, Norio Abiru, Hajime Takei, Hiroshi Nittono, Mizuho Une, Takao Kurosawa, Tsuyoshi Murai, Hiromu Naruse, Tomohiro Nakayama, Kazuhiko Kotani, Alan T Remaley, Atsushi Kawakami. ., 10.2169/internalmedicine.0120-17 (2018)
2 (学術論文) Nonacidic chemotype possessing N-acylated piperidine moiety as potent farnesoid X receptor (FXR) antagonists.	共著	2018 年	ACS Med. Chem. Lett.	FXR アンタゴニスト創製のための研究の一貫として N-acylated piperidine moiety を有する非酸性化合物について検討した。 Naoki Teno, Yukiko Yamashita, Yusuke Iguchi, Ko Fujimori, Mizuho Une, Tomoko Nishimaki-Mogami, Takie Hiramoto, Keigo Gohda. 9(2): 78-83 (2018)
3 (学術論文) Ursodeoxycholic acid suppresses lipogenesis in mouse liver: possible role of the decrease in β -muricholic acid, a farnesoid X receptor antagonist	共著	2017 年	Lipids	熊胆の主成分として知られるウルソデオキシコール酸 (UDCA) は肝臓での脂質合成を抑制して脂質の蓄積を低下させることが知られている。今回の研究で UDCA 投与によりマウスの主胆汁酸である β -ムリコール酸の減少が観察された。FXR-アンタゴニストとして知られる β -ムリコール酸の減少が肝臓の脂質代謝に影響を与えた大きな要因であることが示唆された。 Kyosuke Fujita, Yusuke Iguchi, Mizuho Une, Shiro Watanabe 52:335-344
4 (学術論文) Discovery and optimization of benzimidazole derivatives as a novel chemotype of farnesoid X receptor (FXR) antagonists	共著	2017 年	Bioorgan.Med.Chem.,	FXR アンタゴニストの開発はコレステロール異化を促進するという観点で高コレステロール血症などコレステロールが関連する疾病の治療薬として期待される。本研究では benzimidazole 誘導体に新たな FXR アンタゴニストとしての活性を見い出した。 Naoki Teno, Yusuke Iguchi, Yukiko Yamashita, Nobuhiro Mori, Mizuho Une, Tomoko Nishimaki-Mogami, Keigo Gohda., 25, 1787-1794
5 (総説) 胆汁酸誘導体を用いた 新規 TGR5 アゴニスト 開発のための構造活性 相関	共著	2016	肝胆膵 (アークメディア)	GPCR の一種である TGR5 は脂質代謝、エネルギー代謝、更には糖質の代謝に関わる膜受容体であり、メタボリック症候群の治療ターゲットとして注目されている。新規アゴニストの開発を目指して、ステロイド化合物の構造と活性相関について我々の研究成果を含めてレビューした。 井口祐介、宇根瑞穂 72 巻 5 号 913-921